

慶應義塾との協育の軌跡

2001年

6月 慶大理工学部 矢上賞第1回受賞

2014年

慶大理工学部75創立記念記念事業寄付し、
貢献工学・減災学の寄付講座を開設することを提案

2015年

10月 貢献工学・減災学講座 第1期スタート

2016年

1月 第1期終了

10月 第2期スタート

2017年

1月 第2期終了

10月 第3期スタート

10月15日 理工学部同窓会・特別講演会

2018年

1月 第3期終了

2月9日 湘南藤沢高等部「福澤先生記念講演会」

2019年

慶應高校

「正統と異端イノベーションの協育」講座スタート

2021年

慶應高校講座 参加者2800名



賞上矢

同窓会研究教育奨励基金

表彰状

NGO 人道目的の地雷除去支援の会

富田 洋殿

貴君は自身の地雷探知研究の成果を応用実践し
世界各地の紛争地域に埋設された地雷の除去の
ために献身的に活動しておられますこの顕著な
社会的貢献は理工学部卒業生の模範となるもの
と思われまますのでここに表彰いたします

平成十三年六月十六日

慶應義塾大学理工学部長
大学院理工学研究科委員長

稲崎 一郎

2015年10月7日

「社会に貢献する未来のリーダーを育てる ジオ・サーチ」

講座・研究・論文

ジオ・サーチは、社会に貢献する将来の人材を育成することを目的に、2015年9月から3年間、慶應義塾大学理工学部への寄付講座「貢献工学」を開講します。

慶應義塾大学は、2014年に理工学部創立75周年を記念した事業として、世界トップレベルの教育研究拠点の形成を目指し、世界に通じる人材の育成、グローバルリーダーとしての研究者の養成、21世紀の産業界を牽引する人材の輩出を目的とした取り組みが進めています。



ジオ・サーチは創立75年記念事業の趣旨に賛同し、寄付を行いました。その寄附に対し、同学部が寄付者銘板のお披露目と、寄付者の名前を冠した冠（かんむり）ルーム＝研究室の公開を行いました

弊社社長・富田洋は、2001年に母校の慶應義塾大学理工学部より「人道上の目的による地雷除去活動」に対して「第一回矢上賞」を受賞しており、その受賞は、今日のジオ・サーチの発展のきっかけとなりました。

それから15年、いつ起こるかわからない大災害による最悪の事態に備えるため、国土強靱化への取り組みを、国や自治体、企業が始めています。従来の慣例に囚われない新しい発想と取り組みが今まさに問われており、これらを担う新しい時代の人材も必要とされています。かつて実施した地雷除去事業や2011年の東日本大震災への対応をとおして「貢献する気持ちは人間の本能だ」という確信をもった富田の想いは、75周年記念事業の理念と一致するものです。

その確信を形にすべく、慶應義塾大学管理工学の最先端の研究と合わせ、各界の第一線で活躍されている方々の講話をとおして、新しい学問として体系化するとともに、講座終了後は「貢献学のすすめ（仮称）」を出版する予定です。

本年度の秋学期では、以下の講師による講義を予定しています。

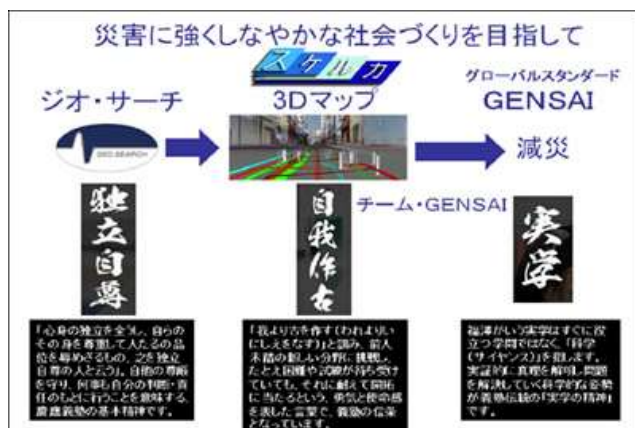
2018年1月17日

慶應義塾大学貢献工学・減災学講座2017年度 第6回講義が開催されました

講座・研究・論文

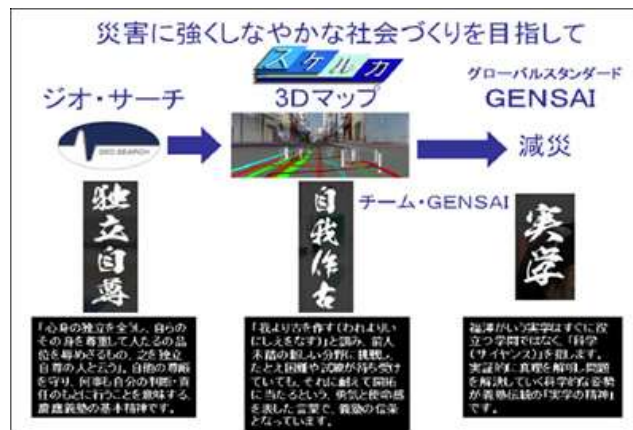


1月17日（水）に本年度講座の最終回として、そして3年間に亘って開催してきた「貢献工学・減災学」の総括として当社代表の富田が登壇し、「貢献工学・減災学 創造への期待 ～災害に強くしなやかな社会づくりのために～」と題して講演しました。



当社の様々な技術と事業の展望を改めて紹介するとともに、福沢諭吉翁の教えも交えながら、技術者倫理の重要性や災害に強くしなやかな社会づくり、将来のビジネスのヒントなど、様々な気付きの場として、そして学生の皆さんが今後の進路を考えるきっかけにもなったのではないのでしょうか。

本講座は、当社ジオ・サーチの寄付講座として2015年度からの3カ年限定で開催しましたが、毎年、各界でご活躍されている著名な方々にご登壇いただき、普段なかなか聞くことの出来ない刺激に溢れた講話は学生の口コミで広がり、履修登録者数が年々大幅に増加する大人気講座となりました。また、毎回学生の皆さんから寄せられた数々の意見や感想は、講師となっていた皆様方の心にも深く刻まれ、まさに半学半教の場となりました。今後は、3年間の講義録を「減災学のすすめ ～貢献心は人間の本能～（仮称）」として取り纏めて出版する予定です。



最後に、今年度の講座開催にあたりまして、ご多忙の中で講師役を快く引き受けていただきました皆様、そして3年に亘って多大なるご協力をいただきました慶應義塾大学理工学部 of 青山前学部長、伊藤学部長をはじめ多くの先生方、関係者の皆様のご支援に感謝いたします。ありがとうございました。

学生の皆さんと記念撮影を行い、本講座は完結しました。



学生の皆さんからいただいた主な感想や意見（抜粋）

・講演者の方の言葉で印象に残っているのは、「災害の発生をなくすことはできないが、減災をすることはできる」という内容であった。災害大国である日本において、この先大きな災害の被害にあうことは避けられないことは明らかであるが、その状況において何をすべきかという疑問に対する答えはこれであると感じた。事実を受け止め、その中で最善の方法を探求するという姿勢は工学者、技術者として大変重要なことであるのだと感じさせられた。

また、講義を通じて教えていただいた、半学半教という言葉もとても心に響いた。自分が上の立場に上り詰めたとしても、常に半学半教の精神を持って新しい知識を蓄えたいと感じた。

・人のために貢献することを第一に考え、利益・お金のみを求めない姿勢は参考にすべきだと思った。講演で述べられていたように、自身の立場を守りたいという自己保存が働くため、人間は善悪関わらず周りの意見に合わせてしまう。きちんとした倫理観を持ち合わせていなければ、間違いを犯してしまうだろう。また、追い込まれたときにも、人間は不正を働きやすいと考えるため、新製品開発のプレッシャーなどがあつたときは、データを改ざんしてしまうかもしれない。ピンチはチャンスに変えることもできるが、不正を生む可能性もあるだろう。帰属意識が強く、生真面目な日本人は特にそのリスクが高いと考える。ピンチをものにする強さを身につける必要があると感じた。

・不祥事を起こす原因として、物事を正しいかより数が多いほうに揃えたいという脳の統一・一貫性によるということをおっしゃっていたが、このような考えに至るのは空気を読むことを重要視する日本特有の考え方に一因があると思われる。大多数の意見に囚われずに世の中にとって正しいと思うことをはっきり主張できるような技術者になりたいと感じた。

今日の日本では欧米諸国と違い、データ改ざんのような不正を行った場合、医者や弁護士は個人的に罰せられるのに対し、技術者は会社として罰せられるが個人では罰せられないという取り決めに納得がいかなかった。なぜなら技術者のほとんどは世の中のシステムの最も重要な根幹を担っていることが多く人々を危険にさらすような間違いは絶対に許されない立場にあり、前述した通り個人より組織に責任を持たせるほうが不祥事を起こしやすいからである。このような状況を打破するために、医者、弁護士同様に一人一人に責任を持たせ、お互い不正をしていないか目を光らせるような環境を作っていくことが大切であると感じた。そしてこのような不正に対して悔しい気持ちを持っていた富田社長はより良い技術を開発して業者によって隠された悪事に立ち向かおうとしており、高島市長がおつ

しゃっていた「批判より提案」というように自らの技術力を駆使した行動によって今日の悪しきルールを変えていこうとする姿勢にととても感銘を受けた。

・世の中にある企業のほとんどは、お金や地位のために事業を展開することが多いように思う。私も将来は、お金をたくさん稼げるところに就職したいというのが本音だ。しかし、富田さんを初めとした講師の皆様のお話は、人の幸せや助けを軸に「貢献」できるのは人間の本能であり、時として私欲のために働くときよりも力を発揮することができるかと教えてくださった。私も、今学校で勉強していることが将来どのような分野で役に立つのかというのはもちろん、どのような面で社会に貢献できるのか、震災が起きたとき今自分が持っている技術力でなにかできることはないかを考えられる大人になりたい。

こういう倫理的なお話を聞けるのは、理工学部の授業ではあまりない機会だと思う。慶應義塾大学の基本精神にも則っているこの授業は、将来社会に進出していく技術者の倫理的な側面を育成するという点で大変素晴らしい授業だった。来年も是非残して欲しい授業である。この授業で聞いたお話を、将来の自分の進路を決めるうえでの糧にしていきたい。

・今、振り返ると講義をしてくれた方々はレジリエンス力が強いのだと思いました。ジオ・サーチ社が地中透視技術を開発したのは業務量が激減した時期であり、高島市長が博多の陥没後すぐに道路やインフラを修正し、その後政策を発表したのも、起きてしまったことを悔やんでいるよりもこれからどうすべきかに重きを置いているからだと感じました。人は、物事が正しいかどうかより数が多いほうに揃えたいという脳の統一・一貫性のくせがあるという話がありましたが、これから社会に出て何か大きなミスをしてしまっても、それを素直に認め今後につなげられる考えを持ちたいです。また、貢献工学の授業を通して、自分のしたい研究は社会にどのような形で貢献できるか、自分のしたいことは何なのかという視点に立って考える機会を得ることが出来ました。この経験を自分の進路を決定する3年生の秋に得られたことは非常に貴重であり、自分が今後どのような研究をしたいか、すべきかを考える一助となりました。ありがとうございました。

以上

[このページを印刷する](#)



講演テーマ：

「災害に強くしなやかな社会づくりのために ～ 貢献工学・減災学のすすめ ～」

講演者：富田 洋

ジオ・サーチ株式会社 代表取締役社長

30年にわたる「人の命と暮らしを守る」活動を通じて
見えてきた、災害大国日本のこれからの進路について
解説します。

講演者略歴：

1977年 慶應義塾大学工学部応用化学科卒業。1989年ジオ・サーチ
社を設立し世界初の道路陥没を予防するシステムを実用化。98年世
界初の企業連合による地雷除去 NGO JAHDS を創設し活動を現地団体
へ06年に継承。地雷探知技術を進化させ、世界初の地中・構造物内
部を高速高解像度で透視できる「スケルカ」を実用化。

3.11大震災直後から被災地での陥没予防と国内外の事前防災・減災
に向けて活動中。2015年慶應大学理工学部へ寄附講座「貢献工学・
減災学」を開講。2001年慶應義塾大学理工学部第1回矢上賞、201
2年アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー特別賞、2015年古屋圭司
(初代国土強靱化)大臣賞など受賞。



日 時：2017年10月15日（日）

13：00 - 14：00

会 場：日吉キャンパス 第4校舎J11教室

*当日は、12：30より同会場で理工学部同窓会総会を行います。

【お問合せ先】慶應義塾大学理工学部同窓会事務局

TEL：045-562-4747（内40900）

E-mail: dosokai@st.keio.ac.jp

理工学部同窓会総会・講演会「災害に強くなやかな社会づくりのために ～貢献工学・減災学のすすめ～」が行われました

2017/10/18 更新

2017年10月15日(日)、2017年度連合三田会大会当日の13:00より日吉キャンパスJ11教室にて理工学部同窓会特別講演会が開催されました。特別講演はジオ・サーチ株式会社代表取締役社長の富田洋氏による「災害に強くなやかな社会づくりのために～貢献工学・減災学のすすめ～」という演題で行われました。当日はあいにくの天気でしたが、塾員および塾生合わせておよそ130名が会場に集まり熱心に講演を聴講していました。

講演では、マイクロ波技術者だった富田氏が起業してジオ・サーチ株式会社を設立したいきさつから始まり、マイクロ波による地雷除去システムの確立、実際の地雷除去作業の逸話などについての話がありました。世界で最も危険なカンボジアでの地雷除去作業、その経験を受けてのタイ・カンボジア国境の遺跡での地雷探査の話など極めて興味深い話をしてくださりました。富田氏の仕事は地雷除去にとどまらず、マイクロ波を利用した地下の空洞探査装置を作成し、災害を未然に防ぐための都市地下の3次元マップの作製に挑みました。現在、日本の都市の地下には多くの空洞が存在し、また地下のインフラの多くが老朽化しています。福岡市で起きた巨大陥没や地下災害などがどこで起きてもおかしくない状況です。富田氏は、空洞探査装置をトラックに乗せた世界初の走る路面下CTスキャナを開発し、路面下の3次元マップ作成を実現しました。この3次元マップによって、都市の弱い部分が明るみになり、災害に強い都市設計ができるようになります。

富田氏のユーモアを交えながらの非常に興味深いお話に、聴衆は最後まで魅了されていました。起業に成功したというだけでなく、世界的に注目される技術を開発し、人々の安全・安心のために貢献する富田氏の活躍ぶりは、慶應義塾の塾員および塾生に勇気を与えるものだと思います。



富田 洋氏(ジオ・サーチ株式会社 代表取締役社長)

2018年2月9日

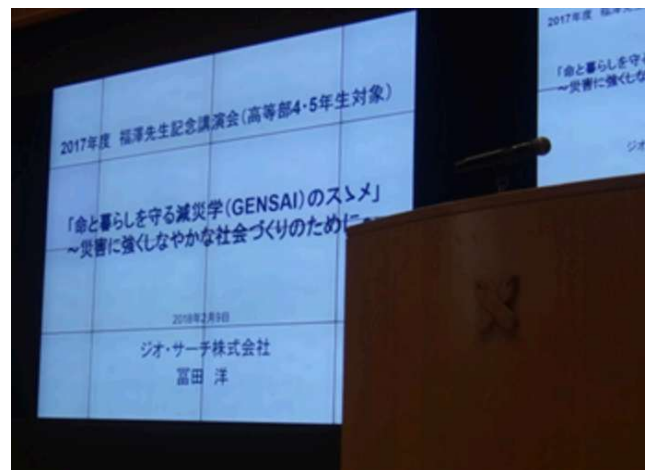
2018年2月9日 慶應義塾湘南藤沢高等部 「福澤先生記念講演会」

講座・研究・論文



平成30年2月9日（金）、慶應義塾湘南藤沢高等部「福澤先生記念講演会」が慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）のシータ館にて開催され、4・5年生（高校1・2年生）約500名を対象に、当社代表の富田洋が講師として登壇しました。

「命と暮らしを守る減災学（GENSAI）のススメ」～災害に強くしなやかな社会づくりのために～と題し、当社の事業活動やスケルカ技術、3DインフラMAPなどの最先端テクノロジーを紹介しながら、「本能としての貢献心」「心のレジリエンス力」「倫理観」などの重要性について講演しました。





「独立自尊」「自我作古」「社中協力」「実学」などの福澤諭吉翁の教えと相まって、現代社会のあり方を改めて考え、さらに将来の進路や未来の自分を思い描くヒントやきっかけにもなったのではないのでしょうか。

生徒の皆さんからいただいた主な感想は、以下の通りです。抜粋してご紹介します。

・日本では数十年以内、近ければ数年以内にも大規模な地震が東海・関東を中心に発生し、それは阪神淡路大震災や関東大震災に匹敵するとも言われている。地震大国と呼ばれている日本に住む自分達だからこそ「減災」について少しでも理解することができた今回のような機会は、非常に大切なものだと感じた。富田さんは慶應義塾の教えや精神に則ったうえで会社を設立し技術を開発して「減災」という分野を確立させていた。幾度無くあったであろう困難を乗り越え、まっすぐに自分の道を進んできた中には、常に災害に強くしなやかな社会づくりという明確な目標があり、それを支えるレジリエンス力が備わっていたのだろう。今後自分が何かの分野を突き進もうと決め、心の底からやりたい事を見つけられたとき、今回学んだような心の持ち方でまっすぐに進んで行こうと思う。

・今回、初めて「減災」という言葉を知りました。自然災害を無くすことは出来ないで、その被害を少なくするという考え方はとても新鮮であり、とても素晴らしいものなのだという思いが話を聞くうちに強くなりました。また、特に印象に残っているのは、「人間は一人では生きることが出来ない」ということです。私たちは生まれたときから様々な人とつながっていて、周りのものや人に感謝しながら生きていくことが重要であり、その思いが“本能の貢献心”を生み出すのではないかと思います。一つの技術を極めることによって、様々な分野とつながることも出来るのだと感じたので、自分の生活で学べる事をしっかりと学び、自分の未来に生かしていきたいです。そして自分が時代の先駆者になれるようにしたいと思いました。

・私は、もともと減災について興味がありました。私の将来の夢の中心となっているものは、地震や災害が起きたときに人の役に立つことです。今日の講演を聞いて技術系でのアプローチもあるのかと思いました。今自分にできる事は災害について正しい知識を持つことだと思い、これからも勉強していこうと背中を押された気持ちです。私は課外活動で自然と関わることをしていますが、常に自然は怖いという気持ちで臨んでいて、それは減災学にもつながるのではないかと思います。いつか災害があったときに力になれるような知識をつけ、仕事をしていきたいと思っていますので、今日のお話を聞けて良かったです。「災害は必ず来るからどう被害を減らすか」、これを頭に入れていきたいと思っています。

・“ピンチをチャンスに”今までその言葉をきいてもイマイチピンとこないことが多かったのですが、富田さんのお話を聞いて、問題発生時は自分が試されている時であって、言わば進化できる契機なのだと強く思えるようになりました。また、その様なピンチの時に慶應義塾のポリシーである「独立自尊」「自我作古」「実学」といったことが生きてくるのだと思います。また、特に減災という観点が自分の目には新鮮に映りました。先を見据えて動く、大事なポイントを見極める、減災の対策はもちろん、心構えの面でも自分に備えるべき点があるなど改めて思いました。

・様々な困難、問題に直面しても諦めるのではなく、更なる発展を目指し、ピンチをチャンスに変えて解決する姿勢の大切さを学びました。また、その過程で様々な人と関わり協力することで、難しいと思われることも成し遂げられると学びました。特に印象に残ったのは、スケルカなどの独自の技術とスピーディーな実行力で多くの人々を救い、社会に貢献する取り組みの数々です。私も将来、減災や社会に貢献できる人間になりたいと思いました。最後に「人の命を守る」ことが中心にあり、そのためのアプローチは医療だけでなく、様々な分野にあるという話を聞いて、自分も自分に合った得意分野で貢献できると勇気が出ました。

・今日の講演で学んだことが2つある。1つ目は、使命感ではなく自らのやりたい事を行うことである。富田さんは何度も問題にぶつかり、精神的にも参ることがあったと思う。それでもあきらめず、問題を乗り越えてきたのは、富田さんが自分のやりたい事をやっていたからである。2つ目は、人は助け合わなければならない、ということである。富田さんは問題にぶつかった際に友人や知人に助けてもらいながら乗り越えてきた。人と助け合うことで、一人ではできないこともできるのである。悩みや困ったことがあったら、一人で悩まずに友達に相談し、また友達が困っていたら自分が助けてあげられるようにしたい。今日学んだこの2つのことをこれからの生活に活かしていきたいと思った。

・起こった問題に打ちのめされるだけではなく、そこから必ず何かを得て新しいことにつなげていく姿勢は、今の自分に欠けているところだと強く実感し、大変

勉強になりました。また、人との出会いを待つのではなく、自ら人に声をかけてチャンスにつなげることは勇気がいることで、とても真似できないとも思いましたが、お話を伺う内に、自分も挑戦してみようと思うことができました。筋を通すということの大切さも感じる事が出来ました。正しい事をしていれば良い事が良い人に巡ってくるのだなと思いました。

・今日の講演を聞いて、「誰かに貢献する」という目的を持って行動ができる人になりたいと思いました。自分が勉強しているのは、点数や単位などの奥行きのない目的ではなく、大学に進学して何を学びたいか、社会に出て自分がどの様なやり方で貢献できるのか、を見つけるような先を見通した目的を持つことができれば、勉強の価値や意味も変わってくるのではないかと思います。また、これから会う人たちとのつながりを大切にし、避けられない震災で助け合うことが出来れば、人間関係にも深みが出ると思いました。まだ、自分中心な考え方で生活しているので、これからはもっと周りで起きていることに目を向け、様々な情報を得ることで多くの発見が出来るのではないかと思います。大学受験がない分、将来のこと、社会のことをもっと考えた生活が出来ればと思います。

・今日の講演で最も印象に残ったのは、レジリエンスの大切さです。自分が人生の壁にぶつかり心が折れそうになっても、そのピンチをチャンスへ変え、より高く次へとつなげていくということです。また、あきらめずに挑戦し続けていれば、いつか必ず夢がかなう日が来るということが分かりました。私も自分の将来をしっかりと見据え、強く高い目標を持って日々を全力で過ごし、自分の人生を楽しみ、やりたい事をやるための基礎を築いていくために、慶應義塾という学びの場を全力で活用して未来を切り開いていきたいと思いました。

・今日の福澤講演会を聞いて、問題解決への挑戦の貪欲さや社会に貢献する気持ちの大切さを学んだ。その発想力の高さや人脈(社中協力)の重要さに深く感銘を受けた。また、地雷撤去の技術が震災による道路陥没防止につながり、無電柱化にもつながっていることに驚いた。災害大国の日本で減災への取り組みの必要性を再認識した。そして即座の判断力の高さは、常に学び続ける精神の賜物であるのだと感じた。形が違っても、社会や人に貢献できる人になりたいと思った。

2019年9月6日

慶應義塾高等学校「協育プログラム」にて 『減災学のスゝメ』 ～災害に強くしなやかな 社会づくりのために～を講演

講座・研究・論文

昨年から開催している、慶應義塾高等学校の開設 70 周年を記念した「正統と異端イノベーションの協育」を掲げた新たな教育プログラムに賛同して「ジオ・サーチ協育プログラム」を 2019 年 9 月 6 日に、開催いたしました。

第二回目となる本年度は、日吉協育ホールにて慶應高校第三学年(800 名)対象に「減災学のスゝメ ～災害に強くしなやかな社会作りのために～」と題して、当社代表の富田洋が講演しました。講演は、3 回に分けて 3 年生全員に実施。各講演 6 クラス約 260 名が聴講しました。



講師を務めた当社代表 富田



2018 年新設された協育ホールでの高校 3 年生の受講風景

JK

Jukuko



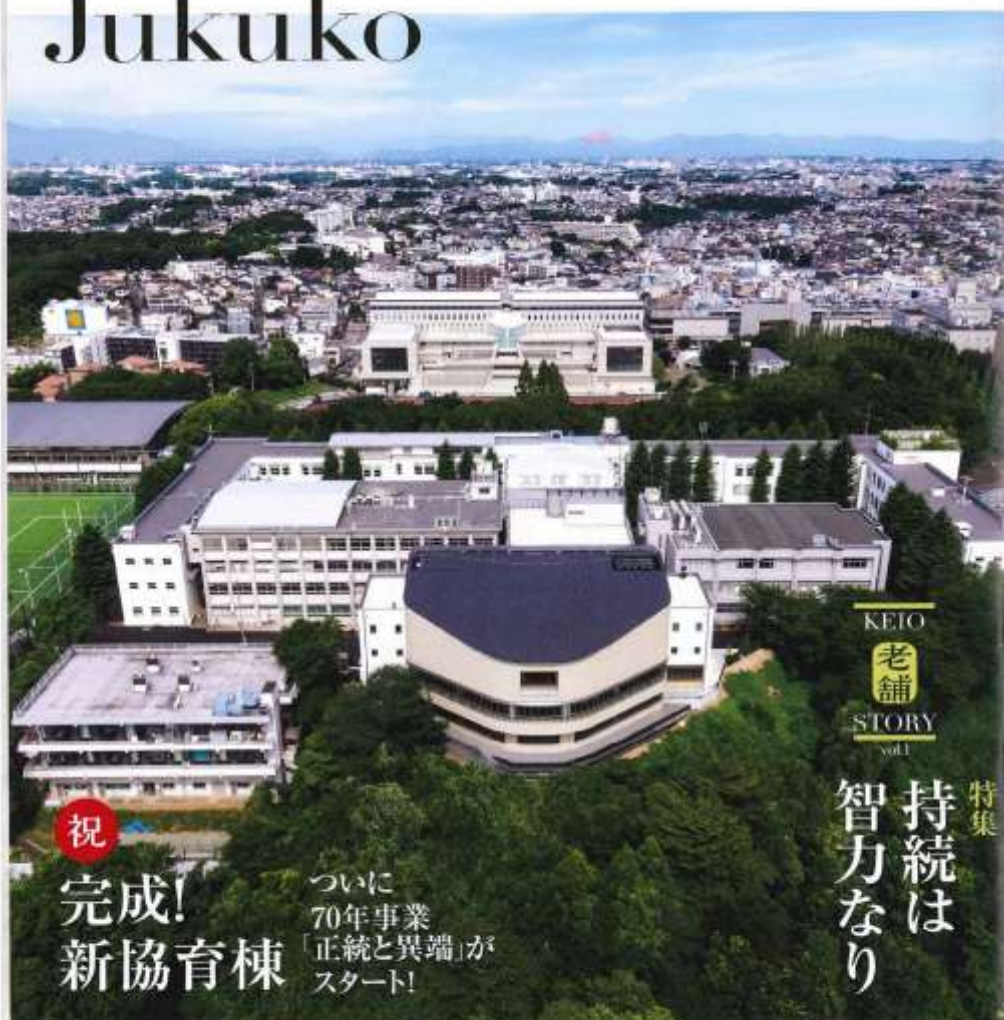
volume

18

2019 SPRING

慶應義塾
高等学校

慶應義塾高等学校同窓会会報誌



KEIO

老舗

STORY

vol.1

特集
持続は
智力なり

祝

完成!
新協育棟

ついに
70年事業
「正統と異端」が
スタート!

「協育プログラム」2018年実施一覧(2018年12月現在)

竣工記念特別講演会

第1学年対象「社会との共生
ー次世代のリーダーとはー」 持田昌典氏(24期/ゴールドマン・サックス
証券株式会社代表取締役社長)

第2学年対象「平和と対話
ー憲法精神の意から、戦争の
時代について考えるー」 郡合武之氏
(48期/憲法憲法協賛研究センター教授)

第3学年対象「環境との調和
ー日吉を知れば、
世界が未来が見えてくるー」 特島正洋氏(憲法憲法協賛研究センター教授)

「基礎のすゝめ」(10/26) 石原良純氏(36期/アレン・レー)

「理系ノス・メ」第1回(10/28) 伊藤公平氏(36期/理工学部)

「理系ノス・メ」第2回(10/31) 大木聖子氏(環境情報学部准教授)
宮本佳明氏(35期/環境情報学部専任講師)

「理系ノス・メ」第3回(10/31) 亀谷孝生氏(理工学部准教授)

「リビタン」マーケティング
実務講座(10/27/28) 第3学年「卒業研究」の講座

「理系ノス・メ」第4回(11/24) 神武直彦氏
(48期/システムデザインマネジメント研究科教授)
矢野創氏(システムデザインマネジメント研究科
准教授、JAXA宇宙科学研究所准教授)

「理系ノス・メ」第5回(12/7) 牛場潤一氏(理工学部准教授)

「食と健康講座」 第3学年「家庭演習」

「減炭素講座」(11/30) 富田洋氏
(25期/ジョー・サナ校長)

「公認会計士
入門講座」(12/13) 水野悦之氏(54期/公認会計士)

その他に

- 法律学(法科大学院(ロースクール)の協力による講座)
- 日吉学【教養研究センターとの連携による講座(定期授業)】
- ドイツ語による学校紹介【外国語教育研究センターとの連携による講座】
- 英語年次大会(10/26)
- 海外見学会
- 海外見学会との短期留学および留学生の経験交流プログラム
King's College School (英国ロンドン)
The Belley School (東アフリカ)
St. John's High School (東アフリカ)
St. John's High School (東アフリカ)
St. John's High School (東アフリカ)
- 日吉協育3期「アーカイブ」で展示
本講座「日吉キャンパスと高等学校のあゆみ」を企画(協育の18年)
- アーカイブ展示報告会(11/19(月)～21(水))
2017年7月1日～18日の卒業生に呼びかけ、本講座の記録や
資料などを提供した。1期～18期の卒業生を対象とする展示報告会。

9月4日と5日に在校生を対象として開催さ
れた講演会。「開設70年事業」として、独自の
教育モデルである「正統と異端の協
育」。この「正統と異端を兼ね備えた人間」
を養成する拠点となる日吉協育棟の竣工を記
念し、学年ごとにそれぞれの講師をお招き
し「将来のリーダー」となる生徒たちに向け、
貴重なお話をいただきました。



「基礎のすゝめ」は、義塾自身で各分野で活躍されている方々をお招
きする講演プログラム。今回は石原良純氏をお招きました。

「理系ノス・メ」は「理系」の面白さや可能性を知ってもらうため
のプログラム。第1回は理工学部の伊藤教授をお招きました。

「理系ノス・メ」第2回は、環境情報学部の大木教授と宮本専任
講師による講義と協育の発展を促した座談会を実施しました。

「理系ノス・メ」第3回は、理工学部の亀谷准教授に「積分表示」
と「正統」の美しい世界を講演していただきました。

日吉協育にて、生徒がデザインを企画したオリジナル・ラベル(オリ
ジナル・ラベル)のロゴデザインをデザインしました。第1回、

「理系ノス・メ」第4回は、「理系から New Space」そして「理系中
より身近に、そして遠くへ」と題し、義塾大学の神武教授と
大野准教授に講演をしていただきました。

「理系ノス・メ」第5回は、理工学部の牛場准教授をお招きし、新
科学の最前線について、講演をしていただきました。

第3学年の選択科目「家庭演習」での調理実習の講座に、グリーン
ハウスグループの方々をお招きして指導していただきました。

ジョー・サナ株式会社協力のもと開催された講座。兄弟に強い社会
をどうやっていけばいいのか、富田氏に講演をしていただきました。

同協会による協育プログラムとして公認会計士の入門講座(簿記3
級レベル)を開催。初年度は講師をお招きしました。

「基礎のすゝめ」や「理系ノス・メ」といった定期的なプログラ
ムのみならず、大学で求められるような専門性の高い講義や講演会を
実施することで、生徒の知と心の出会い、人との出会いを促す「協育
プログラム」。今年度実施された特別講演会には、多くの生徒たちが関
与的に参加し、熱心に耳を傾けていた。同協会主催の協育プログラ
ムとしては、公認会計士の入門講座のほか、保護者対象の特別講演
会も実施した。本年度以降も同協会として「先輩から現役生へ」「現
役生から先輩へ」と、相互の交流を促すような協育プログラムの充
実を期待し、学校とともに「日吉協育モデル」の実現を目指してい
きたい。

実践!! 協育プログラム

「日吉協育モデル」の実現を目指すハード面の建物とともに
先生を育てるのが、ソフト面、その一端である
「協育プログラム」は、OBや入学生教授など多方面からの
協力のもと、多様なプログラムを実施していく。

協育基金・資金への寄付協力のお誘い

高等学校が展開する「日吉協育モデル」の継続に必要
な財政基盤を確立するために、高等学校独自の基金・資金
として「慶應義塾高等学校グローバルリーダー協育基
金・資金」(略称:協育基金・資金)が設立されました。
この基金の運用益ならびに資金は、高等学校における
「講演会・講座等」の諸経費、「国際交流・多文化理解」
活動の経費および参加生徒への奨励金等に活用されま
す。

「日吉協育モデル」の積極的かつ持続的な展開には、
協育基金・資金の充実に不可欠となります。協育基金・
資金へのご賛同、ご支援とご協力を、より一層お願い申
し上げます。

名称	慶應義塾高等学校教育充実資金(慶應義塾高等学校グローバルリーダー協育基金・資金)
目的	慶應義塾高等学校グローバルリーダー協育基金・資金の取組として
形態	個人、法人、団体(任意団体等)
寄付金	一円以上(任意)から以上
申込	お手数ですが、下記 高等学校事務室までご連絡をお願いします。 慶應義塾高等学校 事務室 〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-2 電話 045-346-1340(平日9:00~16:30) FAX 045-346-1378 E-mail jkfund@hks.ac.jp http://www.hks.ac.jp/support/shiku.html
備考	ご寄付を賜りました方々のご名前は、 ご希望により慶應義塾の機関誌である「三田評論」に全額とともに掲載されます。 また、慶應義塾に対する寄付金として税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けることができます。 詳細は「慶應義塾基金定款(サイト)」をご覧ください。